

佐賀県の旧中原町と中原特別支援学校は、平成9年に文部省(当時)から交流教育地域推進事業の指定を受けたことを機に、地域との交流活動を推進している。以来、「なかばるのみんな みんな仲良し」、略して「ナーミー」活動と称し、春と秋の年2回、6種類のゲームを通して町内の小・中学生や老人会、婦人会の方と交流を深めている。実際に行うゲームの中から三つを紹介したい。



かわいい動物が描かれた的を目指してボールを投げる児童

老若男女問わず楽しめるゲームで地域と交流

トの下を通して相手のコートに入れる。玉が床に落ちたら得点が入る。経験がなくてもすぐに楽しむことができる人気のゲームである。

二つ目は動物ポッチャ。転がすボールは通常のポッチャのボールと同じだが、子どもたちが親しみやすい絵を目標として投げることができ、肢体不自由の子どもたちはランプ(勾配具)を使って自分のペースでボールを運ぶことができる。

三つ目はキャッチザスティック。1グループ15人くらいで円になり、合図で隣の人の棒を持つ。「トントンパツ」のリズムでどんどん次のスティックを取っていくゲームである。

これらは、老若男女問わず誰でも初めてでも楽しめるゲームで、近所の西九州大学のESDサークルの皆さんが紹介してくれた。小学生、中学生、特別支援学校生を地域の方がつなぎ、西九州大学の学生がゲームをリードして盛り上げてくれる。

他にも、フルーツバスケットや風船バレーによる交流がある。毎回、参加したみんなの笑顔があふれて、とても優しい気持ちになっている。

(副島晶子・佐賀県立中原特別支援学校教諭)